

教育研究業績

2026年 5月 1日

氏名 飯室 淳子

研究分野 高齢者看護学	学位 修士（老年学）
----------------	---------------

研究のキーワード

看護学教育、高齢者施設看護、世代間交流

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 1) 東海大学医療技術短期大学 (1) 講義科目（科目責任者） 老年看護学概論（1年生対象） 老年臨床看護Ⅰ（2年生対象） 老年臨床看護Ⅱ（2年生対象） (2) 実習科目 老年看護学実習（3年生対象） 2) 国際医療福祉大学 老年看護学方法論（3年生対象） 老年看護学演習（3年生対象） 3) 西武文理大学 (1) 講義科目 老年看護学概論（2年生対象） 老年看護支援論Ⅰ（2年生対象） 老年看護支援論Ⅱ（3年生対象） 看護学の動向と課題（4年生対象） (2) 実習科目 老年看護学実習（3年生対象）旧カリキュラム 老年看護学実習Ⅰ（3年生対象） 老年看護学実習Ⅱ（3年生対象） 療養支援看護実習（4年生対象） 総合実習（老年看護学）（4年生対象）	2019年4月～2020年3月 2009年4月～2021年3月 2008年4月～2009年3月 2007年4月～2022年3月 2023年4月～7月 2023年4月～5月 2024年4月～2025年7月 2023年10月～2026年1月 2024年4月～2025年6月 2023年11月～2025年11月 2023年10月～2024年2月 2024年6月～2026年2月 2024年6月～2026年2月 2024年8月～9月 2024年9月～2025年9月	老年看護学の3つの講義科目へは、科目責任者以外でも部分参加を含め、在職期間中は全ての科目に関わった。学生からの授業評価で共通して高評価の内容は、「教材（教科書、配付資料、視聴覚など）が適切」「学生の反応や理解度を考慮しながらの授業進行」であった。 老年看護学実習は「介護老人福祉施設実習」と「病院実習」で実施。学生4～5名のグループを担当し、病棟や施設フロアで学生が高齢者のその人らしい生活を支えるために行うケアの支援・指導に関わった。 実習目標の達成度としては、評価表各項目の「良い」評価が占める割合も高く、学生の看護実践を支援出来た結果と考える。 小田原保健医療学部看護学科の老年看護学非常勤講師として、講義6回・演習13回を担当した。 老年看護学概論を2年次前期に、老年看護支援論Ⅰを2年次後期に、老年看護支援論Ⅱを3年次前期に、全ての科目の科目責任者として授業構築および実施に取り組んだ。高齢者の持てる力（強み）の存在を学生が意識しながら高齢者との関わりおよび看護に役立つ基盤学修になるように教材資料内容にも工夫を重ね実施した。学生からの授業評価は概ね好評評価であったが、今後は授業評価アンケート回答数を増やす努力が必要と考える。 4年次対象の看護学の動向と課題では、各年度でテーマを吟味し、2025年度は「高齢者と転倒」をテーマに進め、概ね目標到達に至っている。 老年看護学実習は2024年度から新カリキュラムとして単位数を3単位から4単位に増やして実施。老年看護学実習Ⅰ（介護施設実習、2単位）と老年看護学実習Ⅱ（病院実習、2単位）両方の科目責任者として全期間の臨地実習指導も担当し、学生が高齢者のその人らしい生活を支えるために行うケアの支援・指導に関わった。学生の実習目標到達支援へと繋げることが出来た。 4年次対象の療養支援看護実習（2024年度で終了）、総合実習（老年看護学）についても学生の实習目標到達支援へと繋げることが出来た。
2 作成した教科書、教材 1) 東海大学医療技術短期大学 老年看護学実習要項・実習記録様式作成 2) 西武文理大学 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、総合実習（老年看護学）実習要項・実習記録様式作成	2007年4月～2022年3月 2024年1月～2026年3月	カリキュラム変更に伴う新規作成および内容の見直しをはじめ、年度ごとの修正を重ねた。 2024年1月～2026年3月
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 2014年度東海大学医療技術短期大学 総合看護研究施設公開講座 実践編講座講師	2014年10月25日	加齢と健康生活をテーマに、実践編「脳を元気にさせるコツ！！」の講座講師を担当した。

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 資格, 免許 看護婦(現、看護師)免許 厚生労働省認定 看護教員養成講習会(埼玉県)終了		1989年5月31日 2003年3月		
2 所属学会 日本医療・病院管理学会(旧、日本病院管理学会) 会員 日本老年社会科学会 会員 日本看護学教育学会 会員 日本看護科学学会 会員 日本老年看護学会 会員		1998年6月 2008年5月 2008年7月 2008年10月 2015年4月	記載全ての学会会員として現在に至る。	
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 東海大学 第27回海外研修航海 研修団役員(看護師)		1995年2月～4月	東海大学が所有する海洋調査研修船「望星丸」(遠洋/国際航海旅客船・国際総トン数2174トン)で諸外国を訪問する大学独自の教育プログラムにおいて、引率団役員(看護師)として乗船し、研修学生および乗船員の航海中の健康管理を行った。	
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
老年看護学実習における学生指導のあり方に関する研究—療養病院での学生の実習到達度と臨床実習指導内容における学生・臨床実習指導者評価の比較から—(査読付)	共著	2009年3月	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第17・18号	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第17・18号 p.20-28 横島啓子、飯室淳子、岡田さとみ、柏木真里子 老年看護学療養病院実習初年度における学生の到達度と実習指導者の実習指導内容について、学生・実習指導者双方に調査を行い比較検討した。結果、人間関係構築や看護場面での直接的な指導内容は高い評価であったが、記録指導や助言のタイミングなどに課題が見られた。
老年看護学療養病院実習における学生到達度および臨床実習指導者の指導内容の評価—2年目の学生指導方法の取り組みによる評価—(査読付)	共著	2010年3月	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第19号	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第19号 p.9-20 飯室淳子、横島啓子、岡田さとみ、柏木真里子 実習における学生の到達度と指導者の指導内容について、2年目の学生指導方法の取り組みによる評価から、今後の指導上の課題を明らかにする目的で質問紙調査を実施。初年度の結果を基に2年目の指導に取り組んだ介入前後の比較より、患者の退院後の生活支援のイメージ化や記録関連等については評価上昇に繋がっていた。
(その他)				
コロナ禍における学内実習の実際～シミュレータ(一般的全身型モデル人形)を用いた模擬患者への看護計画実施・評価	単著	2021年1月	臨床老年看護	臨床老年看護、28巻1号、p.56-62 コロナ禍で従来の臨地実習計画の変更を余儀なくされる状況下において、学内登校が可能であることを最大限活かした実習室での技術演習方法を検討・実施した。
Web出張!高齢者ケアの教師塾/今、必要とされる教材としての事例の作成と活用のしかけ	共著	2022年8月	日本看護学教育学会第32回学術集会	日本看護学教育学会第32回学術集会講演集 p.109 牛田貴子、梅原里実、中澤美弥、飯室淳子 Web開催の交流セッションにおいて、「老年看護学実習オリエンテーションに事例を活用するねらい」について発表。Web参加者と意見交換を行った。
出張!高齢者ケアの教師塾in福岡/看護教員と臨床看護師の相乗効果を高めあうしかけ-教員からの発信-	共著	2023年8月	日本看護学教育学会第33回学術集会	日本看護学教育学会第33回学術集会講演集 p.109 牛田貴子、梅原里実、飯室淳子、中澤美弥 交流セッションにおいて、「施設職員が学生に見せるのを躊躇したケアを教材化する」について発表。参加者と意見交換を行った。
ベッドサイドの転倒予防策～今あらためて考える臨床知のコレボレーション～	共著	2025年10月	日本転倒予防学会第12回学術集会	日本転倒予防学会第12回学術集会講演集 p.97～98 高木春美、梅原里実、牛田貴子、飯室淳子、小野伴江 オーガナイズドセッションにおいて、「学生と一緒に考えるベッドサイドの転倒予防策」について発表。参加者と意見交換を行った。